

小學  
日本修身書

尋常科  
生徒用

卷二

檢定申請本



K120.1

31a

2

稲垣千穎編述

# 小日本脩身書

東京 成美堂發兌

小日本脩身書卷二

稲垣千穎編述

童子自衣物著  
如女自帶きしむ



第一課

ことは。みづ  
から。なら  
ふづし。

小日本脩身書

稲垣千穎編述

# 小日本脩身書

東京 成美堂發兌

小日本脩身書卷二

稲垣千穎編述

第一課

ことは。みづ  
から。なら  
ふべし。

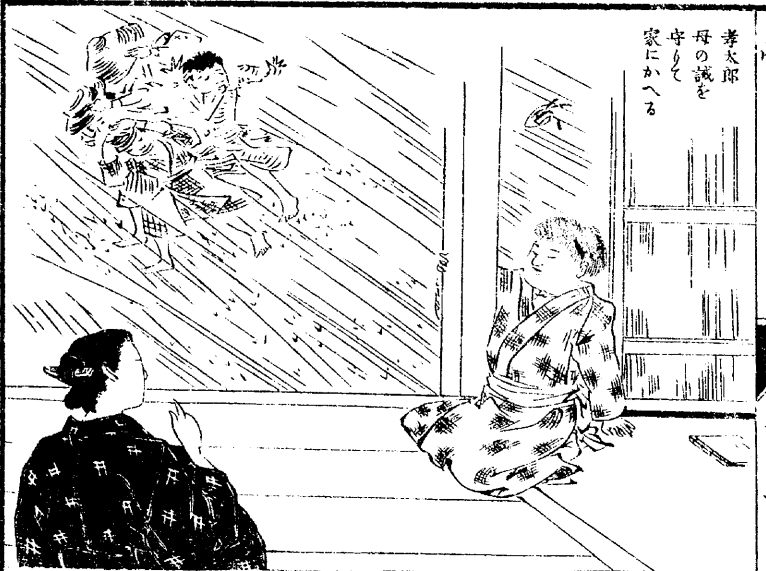
童子自衣物を著  
如女自帯をむ



小日本脩身書

成美堂發兌

孝太郎  
母の誠を  
守りて  
家にかへる



第二課

あちははの  
おほせにー  
たかふべー！



久兵衛  
父母に  
孝を  
つく  
領主  
より  
褒美を  
うく

第三課

こは。たやに  
かうをつく  
すべー。



岩吉 兄 唯吉  
に 田 畑  
を 返 す

第 四 課

あ に に よ ろ  
 し く ね ど う  
 と に よ ろ  
 く す

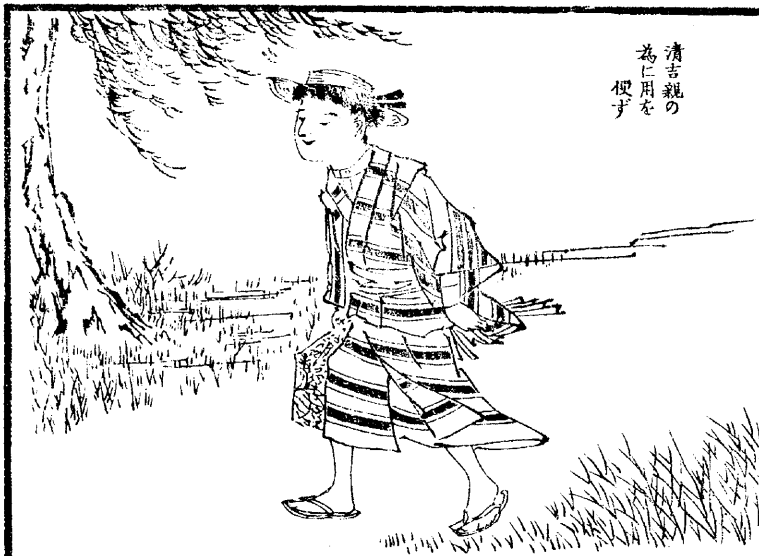


ふで 女 妹 二 人 と 供  
 睡 下 々 家 業 を つ と む

第 五 課

き や う だ い  
 は ゆ び の こ  
 ど し な な く  
 は な る べ か  
 ら ず

清吉親の  
為に用を  
便す



第六課

ちやうしや  
には。うやま  
ひつかへよ。

福徳賣  
よく  
父母を  
うやま  
ふま



第七課

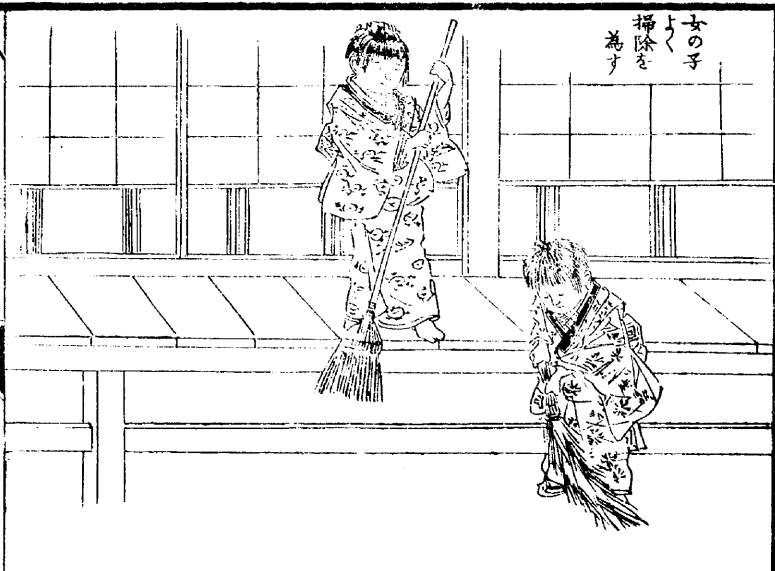
ちちははは  
まひあれば。  
おたはらを  
はなれず。



與三兵衛  
其友の水に  
溺るるを  
救ふ

第八課

ともは。たが  
ひに。まこと  
あるべし。

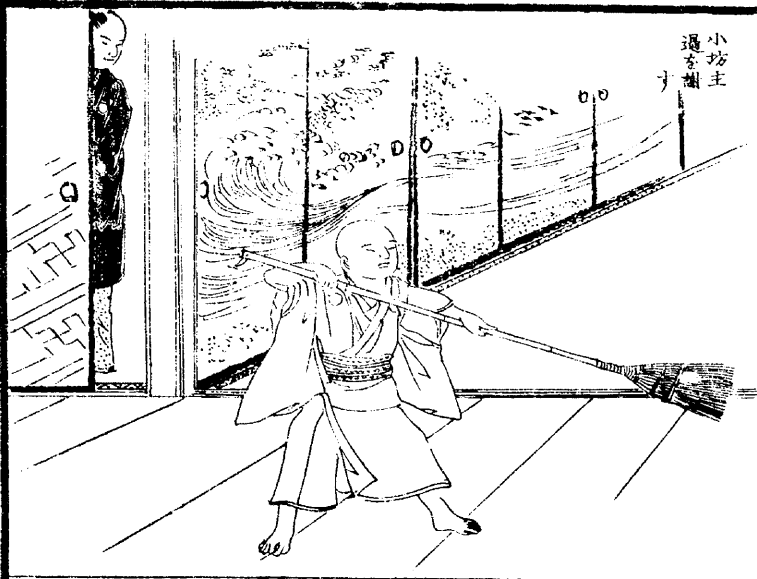


女の子  
よく  
掃除を  
為す

第九課

ひと。は。なら  
はし。をつつ  
しむべし。

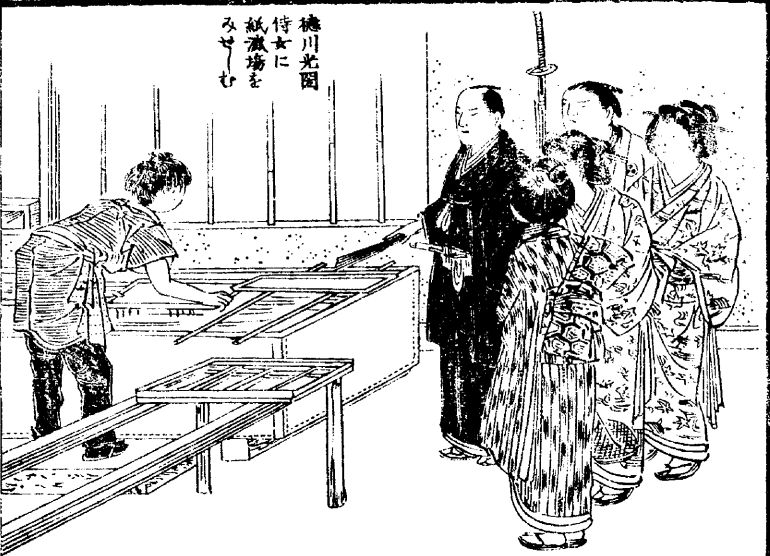
小坊主  
通き謝



第十課

ひとは。しや  
うちきなる  
べー。

徳川光圀  
待女に  
紙漉場を  
みせむ



第十一課

つづまやか  
にすれば。あ  
まりあり。





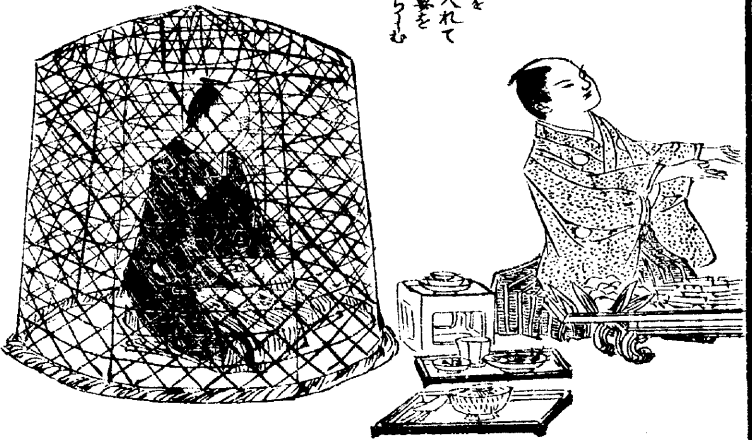
中村陽齋  
失火の際  
他人の家  
の危を  
思ひやる

第十二課

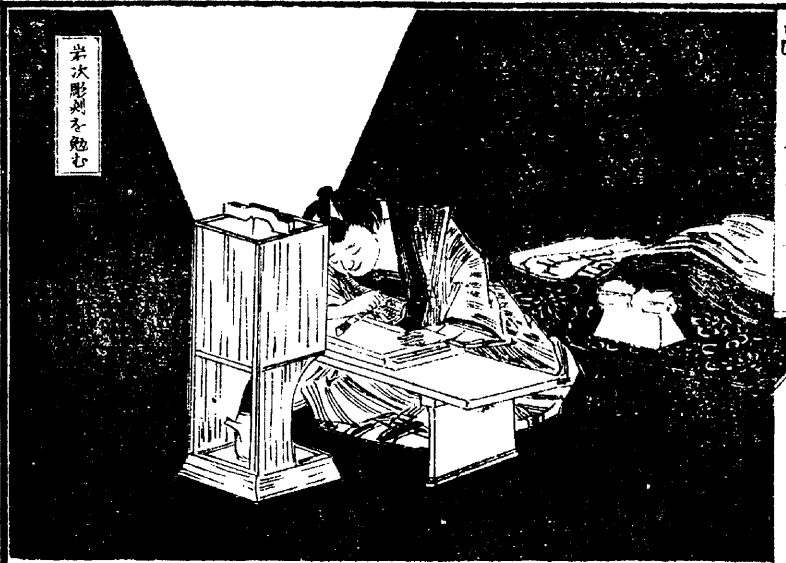
わがみを  
つ  
みて。ひとの  
いたさを  
れ。

第十三課

わのれを  
あ  
いする  
こと  
ろをもつて。  
ひとをあ  
い  
すべし。



信幸近臣を  
籠の中に入れて  
仁慈の必軍を  
悟らしむ



若次彫刻を勉む

第十四課

つとむれば。  
 ひんにかち。  
 つつしめば。  
 あざはひに  
 かつ。



道風達の  
愚耐を見て  
感悟す

第十五課

かくもんは。  
 ぶんきやう  
 にあり。

男の子案内を乞ひて  
用夫の家に入る



第十六課

れいきをば。  
つつしみ来  
もるべし。

梅養ひたる  
栗の實を元の  
所へかへす



第十七課

ぎにあらざ  
れば。とらす。



新七師の爲に  
煤拂の手傳と  
爲して母に實  
せらる

第十八課

しにつかふ  
るは。わやに  
つかふるが  
ごとし。



親三叔  
一人子  
天一人  
を満く  
ナを拜

第十九課

れいなけれ  
は。ひとのみ  
ちたたず。



兒女  
あき地  
遊んで  
まな

第二十課

あやうきと  
ころにては  
あそぶべか  
らず。

小 學 日 本 脩 身 書 卷 二 終

明治二十五年五月五日出版  
 明治二十五年九月廿八日印刷  
 明治二十五年九月廿九日訂正再版

定價金四錢五厘

著 者

稻垣 千穎

發行兼  
印刷人

東京市下谷區仲徒町三丁目廿二番地  
三浦源 助  
岐阜市米屋町廿二番戶

發賣所

成美堂支店

發賣所

東京市日本橋區本材木町壹百  
石井 鈎三郎

大坂市東區備後町四丁目

